Ⅲ. 民窯と民芸—日常の美と個性の展開

Folk Kilns and Folkcrafts

江戸時代になると藩窯や御庭焼とは別に、庶民の需要を満たすべく、民間の窯が全国に築かれるようになりました。これらは民窯と呼ばれます。江戸中期以来の長い歴史をもつ小鹿田焼などの民窯では、現在でも一貫した製法が受け継がれています。それに対して、高取焼のように明治時代になって藩の保護を失い、藩窯から民窯として再出発した窯場もあります。また、民窯のもつ素朴な魅力を見いだした河井寛次郎ら民芸運動の陶工たちは、民窯ならではの素朴な魅力を自身の作品の糧としました。さらに、民芸運動により注目を集めるようになった益子焼等の民窯では、地元の素材を生かしながらも、作家自らの個性を表現した作品を創り出すようになりました。ここでは、そうした民芸運動以降、日本の陶磁界のなかで再評価されていった全国各地の民窯作品を中心に、河井と島岡達三、富本憲吉の民芸系作家の作をあわせて紹介します。

45——福岡・高取焼
作者不詳
《鳳雲文浮彫花瓶》
大正5年(1916)

・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。

・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。

・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出典を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

Regional Features of Japanese Crafts I
Sannomaru Shōzōkan Exhibition Catalogue No.27

Edited by Museum of the Imperial Collections, Japan
(Sannomaru Shōzōkan)
Printed by Ōtsuka Kōgeisha, Ltd., Japan
Translated by Tsuruoka Atsuo
Published by Imperial Household Agency, Japan
Issued on January 12, 2002

Copyright ©2002, Museum of the Imperial Collections, Japan

工芸風土記・壱
諸国やきものめぐり
三の丸尚蔵館企画展図録　No.27

編集：宮内庁三の丸尚蔵館
制作：大塚巧藝社
翻訳：鶴岡厚生
発行：宮内庁
平成14年1月12日